

■ 学校の共通目標

授業づくり	重点	・「ねらいの提示」と「振り返り」を行い、ねらいを明確にした授業を目指す。	中間評価		最終評価	
		・落ち着いて学習に取り組むことができるように、教室前面の掲示物の内容や量に配慮し、刺激量を調整する。				

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組み (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組み (4月)	中間評価・追加する取組み (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<p>学文章を構成する力や書く力は、おおむね満足できる状況である。</p> <p>学送り仮名や正しい語句を用いて、つながりのある文章を書くことに苦手意識をもつ児童がいる。</p> <p>学「読むこと」については、登場人物の気持ちを読み取って、意欲的に音読をする児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「 」や丸や点などの基本的な使い方に課題が見られる。 ・学習した漢字を使わずに文章を書く児童が見られ、言語についての知識・理解、技能を定着させていく必要がある。 ・文と文を関連付けて読み取る力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の意味だけでなく、つながり方や文章の構成について指導を工夫する。 ・朝学習や授業のはじめにドリル学習を取り入れるなどして、新出漢字や言語を確実に定着させる。 ・話すこと、書くことを中心に自分の考えをもち、発表する場を多く設けていく。また、自分の考えを話し合う活動を計画的に位置付ける。 	→	
	算数	<p>学2位数を含む加法・減法については、すべての児童がおおむね理解できている。繰り上がり・繰り下がりのある計算について理解が十分でない児童が見られる。</p> <p>学友達の考えをすすんで聞く態度は育っているが、自分の考えを図や式を使って説明する力には個人差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がり、繰り下がりの加法、減法の筆算については習熟に個人差が見られる。 ・自分の考えを図や式や言葉に関連付けて表現する力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答えの見積もりや位取りの意識を明確にもつように計算の指導を行い、その意味を理解できるよう学習に取り組ませるとともに、朝学習や家庭学習でも学習事項の復習を繰り返し行い、定着を図る。 ・ペアや小グループで自分の考えを発表する活動を計画的に位置付け、互いの考えのよさに触れさせる。 		
3	国語	<p>調観点別に見ると、どの観点もおおむね満足できる状況である。特に「書く能力」や「読む能力」については、全国平均よりも約10ポイント以上上回っている。比例して、領域別でも「書くこと」や「読むこと」が10ポイント以上全国よりも上回っている。</p> <p>学与えられた課題に対しては、黙々と取り組むが、自らの考えを発表したり、丁寧に文字を書いたりすることには、個人差が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んだり友達の発表を聞いたりするときに、自分の考えや感想をもちながら聞くことに課題が見られる。 ・グループで話し合ったり聞き合ったりして、自らの考えを深めることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や文法の使い方などの基礎的・基本的な内容を確実に習得させるために、朝学習時にドリル学習や漢字練習を積極的に取り入れて習熟を図る。 ・ペアや小グループで自分の考えや感想を発表することや、それを聞いた感想を書く機会を多くする。 ・自分の考えを明確にして書く力を身に付けるために、読み取って分かったことや思ったことをワークシート等にまとめる活動を計画的に位置付ける。 	→	
	算数	<p>調全体の正答率が、全国平均を10ポイント以上上回っており、満足できる状況である。</p> <p>調全ての観点別の正答率が全国平均を上回っている。特に、「数量や図形の技能」「知識・理解」の正答率は全国平均を10ポイント以上上回っており、十分満足できる状況にある。</p> <p>学課題に対して集中して取り組み、多様な考えを出そうとする意欲も高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長さや大きな数に関する知識と技能を向上させるために、朝学習や授業中にドリル学習やプリントによる復習を取り入れる。 ・具体物を使う活動や体験活動を多くし、数と結び付けて考えることにより、数量に関する感覚を養う。 			

4	国語	<p>調 どの観点も、おおむね満足できる状況である。特に「読む能力」「書く能力」については、全国平均よりも約10ポイント上回っている。</p> <p>調 「言語についての知識・理解・技能」についても全国平均を上回っているが、約6ポイントであり、他の領域に比べると全国平均との差は少ない。</p> <p>学 書くことに意欲的な児童が多い。家庭学習も着実に進める児童が9割以上である。一方で、積極的に発言できる児童は半数ほどである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読むことや書くことに意欲的に取り組むが、言葉の意味を正確に捉えていなかったり、作文で漢字を使えていなかったりする様子も見られる。 友達の考えと比べながら発言したり聞いたりすることに課題がある。積極的に意見を言える子は、聞くことによる考えの深まりを感じられるように、聞くことが得意な児童は、自分の意見をまとめて伝えられるようにするなど、児童が自分の課題を意識して学習できるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中にも、国語辞典を使って言葉の意味を調べる機会を多くとり、分からない言葉の意味を調べる習慣を身に付けさせる。また家庭学習と合わせて音読や漢字練習に取り組み、文章を読むことや漢字、言葉に慣れるようにする。 小グループや学級全体で自分の考えや感想を発表し合ったり、書いたりする機会を多くとり、学び合うことで考えが深まることを実感できるようにする。 習熟の差に対応できるように、学習グループの構成を工夫したり、個別指導を行ったりする。 		
	算数	<p>調 観点別、領域別共に、「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識理解」で全国平均を10ポイント以上上回っており、おおむね満足できる状況にある。</p> <p>調 全体の正答率を見るとやや個人差が見られるので、習熟度に応じた指導が必要である。</p> <p>学 すすんで問題に取り組むことができる児童が多い。反面、自分の考えをノートに分かりやすく表現したり発表したりすることに苦手意識をもっている児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3年生までの学習を使って考える単元が増えてきたため、既習事項が定着していない児童の中には、算数に苦手意識を感じている児童もいる。 自分の考えを分かりやすく表現したり、友達の考えに関心をもって聞き、自分の考えを深めたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習や朝学習で「東京ベーシックドリル」等を用い、繰り返し問題に取り組み、基礎・基本の確実な定着を目指す。 理解度を高めることにより、学習意欲につなげていく。 習熟度別指導のクラス分けを工夫し指導する。自分の考えを表現し交流し合う学習を習熟度に応じて行う。 自分の考えを分かりやすく表現したり、友達との交流で考えを深めたりするよさを実感できるようにする。 		
5	国語	<p>調 正答率は全国を5ポイント以上上回っており、どの観点も全国平均を上回っている。おおむね満足できる状況である。</p> <p>調 「読む能力」においては、全国平均を5ポイント以上上回っており、「読む能力」が向上していることが分かる。</p> <p>学 課題に対して意欲的に取り組むが、自分の考えを書くこと、発表することに苦手意識をもっている児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで、内容を理解したり、筆者の伝えたいことをつかんだりすることはできるが、筆者の考えをもとに、自分の考えを書くことが苦手な児童がいる。 自分の考えを発表し、意見を共有することでさらに自分の考えを深めたり広げたりすることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書く際に必要なことを具体的に示し、自分の考えの根拠を明確に示せるようにする。 新出漢字を学習する際、漢字の練習とともに熟読や文作りも行うことで、文章力を身に付けられるようにする。 少人数の話し合いからスタートし、話し合うことで自分の考えがより深まることを感じるようにする。そして、徐々に学級全体の中で自分の意見を述べ合い、考えを深められるようにする。 		
	算数	<p>調 全体的な正答率の傾向からすると、既習事項がまだ完全には定着していない分野がある。</p> <p>調 「数学的な考え方」については、全国を約3ポイント上回っている。</p> <p>学 課題に対し、真剣に取り組もうとする姿勢が見られる。しかし、中には算数に苦手意識をもっている児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図形の定義や性質に対する理解に課題が見られる。 算数に対する興味・感心に差が見られ、習熟度に応じた指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 短時間の学習時間を基礎・基本の定着の時間とし、プリントや「東京ベーシックドリル」などで反復練習をする。理解度を高めることで算数に対する苦手意識をなくし、次の学習意欲につなげていく。 習熟度の差が開かないように、習熟度別クラスの編成を単元ごとに行い、個人に合ったペースで学習できる体制を整える。 図形の学習の際には、実際に図形を作成するなどの操作的活動を取り入れることで、図形への理解を深めていく。 		
6	国語	<p>調 観点別にみると、「関心・意欲・態度」「話す聞く能力」「書く能力」「読む能力」については全国平均を上回っている。「読む能力」については、全国平均よりも約10ポイント上回っている。</p> <p>調 「言語についての知識・理解・技能」の正答率は、全国平均とほぼ同じである。</p> <p>調 正答率分布から、正答率80%以上の児童が約6割いる。</p> <p>学 漢字や言葉遣い等、言語事項に課題がある児童もいるので、日常から繰り返し指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前学年までに配当されている漢字の読み書きについて、十分定着していない児童の割合がやや高く課題がある。 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書くことにやや課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて内容や要旨を捉えながら読む能力を身に付けるとともに、読書量を増やすことで様々な考え方に触れて自分の考えを広げたり、深めたりして学習を進める。 定期的に漢字の小テストを実施し、漢字を読む力や書く力の定着度を確認するとともに、個に応じた習得方法を見付け、定着度を上げる。 		
	算数	<p>調 観点別にみると「数学的な考え方」は全国平均を約3ポイント上回っている。</p> <p>調 「関心・意欲・態度」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識理解」については個人差が見られる。</p> <p>学 基本的な計算に課題が見られることがあり、学年をさかのぼってプリント等で指導する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「どのようにこの問題が解けるだろうか。」と多様な考えを導き出すような問題では、集団解決の場において考えを再構築したり、自分の考えを広げたりすることが課題である。 四則計算をはじめとする基礎的・基本的な内容の習得に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に自分の考えをノート等書いたり、発表したりする場を多く設け、解き方や考え方を書く経験を積み重ねることができるようになる。 朝学習や算数の学習のはじめに、「東京ベーシック・ドリル」や児童の実態に応じたプリント学習等を行い、基礎的・基本的な力の定着を図る。 		

音楽	<p>学 学習意欲はどの学年も高く、歌唱においては6年生の歌声を目標に取り組んでいる。</p> <p>学 「こんなふう演奏したい」というつぶやきがある一方で、ただ演奏するだけであったり、または技能に課題があったりする児童も見られる。</p> <p>学 ペアで聴き合ったり、アドバイスし合ったりすることで表現の高まりが見られる。</p> <p>学 表現活動を学級だけにとどまらず、学校全体に向けて行うことで、自己肯定感や達成感を感じられた児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲は見られるが、すすんで音楽と関わろうとする態度を培っていく必要がある。 ・思いや意図の表現や技能の習熟度に課題が見られる。 ・意見を共有することで音楽に対する視野を広げ、音楽活動への関わり方の深まりに課題が見られる。 ・児童一人一人が音楽活動を通して自分の成長を感じることで、次への意欲につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のめあてや活動の見直しをもたせ、児童が自ら考えながら楽曲に向き合える環境を作る。 ・児童の実態に即した題材を用いて、音楽づくりや鑑賞での感受を思いや意図につなげられるようにする。 ・相互に評価し合う場や知覚したことを共有する場を設け、意見を交流する中で、よりよい歌い方に気付き、音楽の感じ方も広がるようにしていく。 ・表現活動後の振り返り（ワークシート、視聴覚）を設定し、児童が自分自身の成長を実感できるようにする。 		
図工	<p>学 全学年とも造形に対する関心意欲が高く、楽しんで取り組んでいる。</p> <p>学 材料などから感じたこと、考えたことをもとに、自分らしい発想を広げ、表したいことを見付け、表現することがおおむねできている。</p> <p>学 友達の作品にも興味があり、鑑賞活動も意欲的で、楽しんで取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・題材からつくりたいものを思いつく発想力はあるが、作り出す前に、完成のイメージをもって制作するなど見直しをもって活動することに課題がある。 ・制作途中で、いろいろ試したり工夫したりして、よりよいものにしようとする力を培っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の工夫や参考作品の提示のタイミングを工夫し、活動の見直しや完成のイメージをもたせる。 ・制作途中で他の友人の作品やアイデアを紹介したり、児童自身が自分の思いに合わせて材料や用具、表し方を選んだりし、納得いくまで試みられるような場の設定を工夫する。また、失敗を恐れないように、試したり、繰り返すつくりかえたりできるような学習過程を工夫する。 		
特支					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。